

編集委員会から

前号の「編集委員会から」は、国際学術雑誌を目指すため「海外の研究者に本誌への投稿すすめてください。」で締めくくりました。会員のみなさまのご協力があるのかもしれませんが、本年になってから、海外からの投稿が増えました。詳細は不明ですが、Scopus indexed journal であり、さらに open access journal であることも理由かもしれません。第2号に掲載された論文が Japan Journal of Food Engineering として、はじめての海外からの一般投稿論文です。それ以前の海外からの論文はすべて依頼論文でした。

第4回国際乾燥会議 IDS1984（1984年7月9-12日、京都国際会館）が開催されてから32年ぶりに日本で第20回国際乾燥会議（IDS2016）が実施されました（岐阜、8月7-10日）。多数の日本食品工学会会員が会議の企画運営に参画し、また論文を発表しました。IDSでは、発表された優秀論文を、いくつかの学術雑誌に特集号として掲載することが慣例となっています。今回のIDS2016では、日本食品工学会誌もIDS優秀論文に投稿を呼びかけることにしました。2016年4号から2017年3号まで4回にわたり10編程度掲載を予定していません（投稿後、通常の審査をしますので、一度に10編の掲載は困難です）。

もともと海外からの一般投稿は想定しておらず、このように多数の投稿を受けつけると、編集委員会としても、いろいろな面に対応して右往左往せざるを得ません。例えば、PAYPALによる掲載料支払を希望されたので、大至急、対応することにしました。論文審査のやりとりをはじめ、海外からの一般投稿に対応するプロトコルも十分ではありません。世界には学術雑誌に十分アクセスできない研究者も多数存在し、そのような研究者を支援するサイト Research4Life (<http://www.research4life.org/>) もあります。大手出版社も本サイトのガイドラインに従って支援しているようですし、掲載料免除をしている学術雑誌もあります。食品工学研究者は、上記サイトで支援が必要な国・地域にも多数いると思われます。本会も掲載料免除について検討する予定です。

もう1点、お知らせしたいことがあります。本誌は年間4号発行で3か月おきとなります。研究者はできるだけ早く自分の論文が公開されることを期待していますので、その間にアクセプトされた論文を（多少、費用がかかりますが）、DOIを付してWEB上で早期公開をすることとしました。

本誌へのご意見はいつでもお聞かせください。

(山口大学 山本修一)